

子育て

2021. 7. 28

子育てはむずかしい。だが、多くのことを学べるのも事実である。女子レスリングでオリンピック3連覇、世界大会16連覇の偉業を成し遂げた吉田沙保里選手のお母さん、吉田幸代さんの話である。

リオデジャネイロオリンピックの結果は銀メダルでしたけど、負ける時は絶対にいつか来るというのは、ずっと考えていました。2008年には、北京オリンピック直前の試合で初めて外国人選手に敗れて、連勝記録が119で途切れしました。

監督から「沙保里が泣きやまなくて困っているの、何とかしてください」って電話が掛かってきたので、私はこう言ったんです。

「これまで119人の人があなたに負けて泣いてるんだよ。たった1回負けたくらいで何だっていうの。北京オリンピックで優勝すればいいじゃない」と。沙保里はそこからまた元気になって金メダルを取ってくれました。

そうしてずっと金メダルを取ってきましたから、リオでもやっぱり金が欲しかった。だから負けた後に銀メダルを見せてもらった時には、沙保里はまだ泣きはらした顔をしていました。でもその銀メダルがすごく綺麗で、「プラチナみたいに綺麗だね。うちにはないメダルだからよかった」って言ったら、「お母さんがそう言ってくれてよかった」って笑顔を取り戻してくれたんです。

どちらも自然と出てきた言葉なんですけど、頑張る娘をずっと応援してきたから、そういう言葉が咄嗟に出てきたんだと思うんです。沙保里はそういう私の言葉をいつも「ありがとう」って素直に受け止めてくれました。

終わったことは仕方がないから、また前に進まなきゃって教えてきましたし、もともといつまでもクヨクヨする子じゃありません。ワーッと泣いて終わり。そういう性格なんです。

咄嗟に、このような言葉が出てくるだろうか。これは、吉田家の特別な話とも言える。だが、世界レベルとは言わないまでも、子育てにおいて、似たような状況はあるように思う。子育てにおいて、子どもにどれほどの言葉をかけているだろうか。

何かうまいことを言おうとしても、全くうまくはいかない。やはり、咄嗟に出てきた言葉が真実である。ありきたりの言葉になってしまうのがほとんどだが、子どもというものは、親の話は聞いているものである。だから、親としての思いは伝えた方がよい。

我が家の二人の子どもは、ともに20歳を過ぎてしまった。子育てというには、もう適さない年齢になってしまったかもしれない。だが、親として伝えていきたいことはある。これからは、子どもというよりは、一人の大人として、いろいろな話ができるかもしれない。それはそれでいい。親である以上、ずっと子育ては続く。